

一九九四年一月に、創価学会は法華経の梵語写本などを刊行するための「出版委員会」を充足させた。一九九七年五月に『旅順博物館所蔵梵文法華経断簡—写真版及びローマ字版』を出版して以来、二〇一四年三月の『コルカタ・アジア協会所蔵梵文法華経写本 (No. 409) —ローマ字版』に至るまで、「法華経写本シリーズ」として十六点が出版された。一方、「法華経とシルクロード」展が一九九八年十一月に東京で、二〇〇〇年三月、四月にオーストリアで、同五月にドイツで開催された。ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所（当時は同アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部）所蔵の膨大な実物写本及び版本を展示したものである。その後、パネルとレプリカを中心とした「法華経——平和と共生のメッセージ」展が後継展示として世界各地で開催されている。

本年四月には、パリで、ロシア東洋古文書研究所からの実物写本等の出品も得て「仏教経典 世界の精神遺産——写本と画像で知る法華経」展が開催された。フランス在の仏教学者はじめ多くの

成功を支える力

水船教義

来場者が観覧したとのことである。

「写本シリーズ」「経典展示」とともに、当事者として、また側面からの協力者として、二十余年にわたって関わらせていただいたが、各機関・部門の責任者の方の尽力はもとより、実務を担う数多くの人々の献身的な支えがあつてはじめて実現したものであることを強調したい。中でも粘り腰で各種展示を成功させ本年七月に退職された東洋哲学研究所の大内裕家氏、様々な困難をもつともせず、協力いただいた東洋古文書研究所のマルガリータ・ヴォロビヨヴァ・デシヤトフスカヤ博士、イリーナ・ポボワ所長等関係者の貢献を特記したい。日頃は一見おっとりとしたロシアの方々であるが、最も困難な時に最大の力を発揮するその底力は驚嘆に値する。また、通訳、翻訳にたずさわっていたいただいた方々の努力も最大に称賛したい。最後に二〇一七年、二〇一九年、二〇二一年と三冊の「写本シリーズ」の出版が計画されていることをお伝えしたい。

（みずふね のりよし／東洋哲学研究所委嘱研究員）